

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価（3月22日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1)ICT の利活用・国立大学への進学希望への対応・学校の特色を反映させた新教育課程を編成・運用する。 (2)情報や知識を統合して課題解決する力を育成するためのICT利活用を推進する。	(1)生徒の「高い目標」設定と目標実現を支援する「文理両道」の視点による科学的・論理的思考力を育成する理数教育の推進及び教育課程の運用。 (2)ICT利活用及び理数教育を推進し、情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。	(1)理数探究基礎の設置（SSH申請）に向けた準備を行う。 (2)公開研究授業や研究協議を通して、「個→協働→個」「内化→外化→内化」の構造を持つ授業に組織的に取り組む。また、1人1台端末の活用を促進するためGoogle Workspaceの活用法の研修を行い、積極的に活用する。	(1)理数探究基礎の実施に向けたカリキュラムの編成ができたか。 (2)生徒による授業評価項目3及び6の「4」の回答が40%以上になったか。（課題解決について）また、生徒による授業評価項目8の「4」の回答が40%以上になったか。（ICTの活用について）	(1)令和7年度入学生用カリキュラムを編成し、理数探究基礎（1年次）、理数探究（2年次、3年次）の設置及び数学B（2年次）の必修化を実現した。 (2)12月に実施した生徒による授業評価項目3及び6の「4」の回答が42%（昨年12月3月は42%、6月は40%）、（課題解決について）授業評価項目8の「4」の回答が32%であった。（昨年12月36%）（ICTの活用について）	(1)理数探究基礎（1年次）、理数探究（2年次、3年次）の教科書の選定、実施形態、指導内容の検討を行っていく。 (2)授業評価項目8の「4」の回答が昨年度より低くなっている。（ICTの活用について）授業研究や情報利活用推進委員会での検討を通して、一人一台端末による資料読解、文章作成、グループワークを推進する。	・SSHの指定に向けて、確実に進んでいるので素晴らしい。どのような特色を持って、どのような生徒を育てるか、差別化を図ることが大事である。 ・ICT利活用については、生徒と対話しながら検討すれば、生田高校らしい生徒に寄り添った利活用につながるのではないかと。	(1)理数教育の推進、SSHの申請へ向けて、計画通り進んでいる。理数探究基礎、理数探究の展開の仕方等について、次年度検討する必要がある。 (2)一人一台端末活用の充実について課題がある。	(1)理数教育推進プロジェクトチームで、各教科、各グループとの連携を図りながら、検討を行う。 (2)情報利活用推進委員会や各教科において、スマートフォンではできない学習活動を促進し、組織的に授業改善を行う。
2 生徒指導・支援	(1)他人や自分を大切に、社会の発展に貢献する力を育成する。 (2)学校行事や部活動を通して、他者と協力して課題を発見し、解決する力を育成する。	(1)「過ごしやすい学校生活」を送るために社会生活上での規範意識やマナー等、自己指導能力の育成を図る。 (2)教育相談体制を充実させ、報告、連絡、相談が速やかになされるようにする。	(1)学期の節目や学校行事などの機会をとらえ、生徒のルールやマナーに対する意識を喚起するとともに、生徒が自ら正しく判断し行動できるよう支援を行う。挨拶の励行やいじめ防止教育などを通じ、他人を思いやる気持ちを育てる。 (2)SC、SSWとの連携、ケース会議の視点による学年会議を推進する。	(1)交通事故やマナー違反の発生件数を抑制できたか。いじめ防止に対する意識の向上が見られるようになったか。SNS利用に関するトラブルを減少させることができたか。 (2)SC、SSWとの連携、ケース会議の視点による学年会議により、具体的な生徒支援を実施できたか。	(1)自転車運転免許証を発行して交通ルールを守るように指導した。自転車事故は、7件発生した。自転車の乗り方やバス乗車マナーについて近隣から意見が寄せられており、引き続き指導していく必要がある。 (2)SNS等での誹謗中傷やいじめにつながる書き込みについて、1年生を対象に研修会を実施、また全校集会で理解を深めさせた。 (3)SC、SSWの来校日を生徒・教員に周知し、教員による教育相談に当たった。支援を必要とする生徒に対して毎週学年会や生活支援グループで情報共有した。サポートドックを実施してプッシュ型面談を行うなど、相談体制を充実させた。	(1)通学時の自転車事故を未然に防ぐため、引き続き、入学時に交通ルールの筆記試験を行う。さらに交通安全講話、業者に依頼して自転車点検をPTAの協力のもと実施する。継続して安全運転・交通ルールを順守させるように呼びかける必要がある。 (2)インターネット上で発信される情報の特質を十分に理解した上で、ネット上のトラブルについての最新の動向を把握する必要がある。SNSは、大人の目に触れにくく、問題行動を発見しにくいと、情報モラル教育を推進していくとともに、同時に保護者の理解と協力を求めていく必要がある。 (3)サポートドックで生徒が抱える課題を確実にキャッチしていく。SCやSSWと連携し、継続的に生徒の悩みの解決やストレス解消等を図っていく。	・SNSなどの情報モラル教育もきめ細やかに対応している。 ・自転車についての罰則規定が強化されたが、その対策等について検討していただきたい。	(1)交通ルールテストを実施して交通ルールを守るように指導した。 (2)SNS等での誹謗中傷やいじめにつながる書き込みや無断写真撮影・掲載について、随時ホームルーム等で指導し、全校集会で理解を深めさせた。 (3)サポートドックの実施を通して、SSWとSCと連携し、教育相談に当たった。各学年会で必要とする生徒に関して情報を共有し、生徒理解を深めた。	(1)自転車でのヘルメット着用の啓発や登下校時の交通安全指導の充実を図る。 (2)情報モラル教育をすすめるとともに保護者の理解を促進する。 (3)プッシュ型面談等を通して、SSWやSCとの連携や生徒との面談の時間の確保を図り、生徒理解に努める。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	(1)生徒に自分の適性を気づかせる機会を多数提供し、進路を主体的に探究できる力を育成する。 (2)早期に自分の目標を見つけ、多くの生徒がその実現に向け努力しようとする意欲を育成する。 (3)国公立大学への進学者を増やす。	(1)理数教育を深化させるために、「総合的な探究の時間」と教科学習を連携させたカリキュラムを実施する。また、大学出張講義の内容を検討する。 (2)生田流「文武両道」「文理両道」を基に、生徒が高い目標を実現するための努力を継続的にできるような働きかけをより強化する。	(1)各教科・科目の各単元において、課題研究につながる(探究テーマを示唆する)学習活動を行う。数学科においては他教科の領域と数学的手法との関連を積極的に取り扱う。 (2)スタディーサポートや模試、進路希望調査などのデータをもとに丁寧に面談を行い、継続的な個別指導の充実をはかる。	(1)各教科・科目において課題研究につながるような学習活動ができたか。生徒の課題発見能力・解決力を育むことができたか。数学科においては、他教科の領域と数学的手法との関連を積極的に取り扱うことができたか。 (2)面談期間や履修指導等を通して、個別指導の充実を図ることができたか。(生徒の面談実施率90%以上)	(1)「総合的な探究の時間」について「情報I」「数学I」と連携して理数教育を目的としたカリキュラム(データ分析)を実施できた。また、明治大学と連携して教授による特別講義や大学生を授業に招いてアドバイスをもらうプログラムも実施できた。 (2)各学年と連携して面談で扱うべき内容を文書化し、各担任へ説明した上で全生徒に面談を実施した。三者面談向けに本校独自に(進路希望や成績を記載した)個票を作成し、面談を充実した内容とした。 (3)地方国公立大学の紹介に力を入れるとともに、高い目標を継続させる指導を行うことで、89%の生徒が共通テストを出願した。	(1)各教科・科目において、単元のまとめ等で、学際的テーマを提示し、探究的活動のヒントとする。また、各教科・科目において、言語能力、情報活用能力を育成する。 (2)面談については担任の負担が大きい。1・2学期期末の二者面談については、内容の共通化を促進し、副担任の関わりを具体化した。三者面談については、スケジュールの統一化を促進し、時間活用効率化を図りたい。	・明治大学との連携が深まっているのはいい流れである。 ・アンケートの結果をみると中・学段階では、目標が定まっていなかった生徒が多いが、高校ではしっかりとしたキャリア教育が実践されている。	(1)「総合的な探究の時間」について各教科と連携して新たなカリキュラムを実施できた。明治大学との連携では、特別講義に加えて新たに大学生に探究的活動の助言指導をしてもらうことができた。 (2)面談内容の文書化や本校独自の個票による質の向上、面談実施率100%を達成した。 (3)高い目標を継続させる指導の結果、国公立大学に18名が進学した。	(1)各教科・科目と連携するために、学際的テーマを提示し、探究的活動のヒントとする。また、言語能力、情報活用能力を育成する。 (2)面談については担任の負担軽減や質の向上に向けて、共通化を促進し、副担任の関わりを具体化を検討する。
4 地域等との協働	(1)学校運営協議会を活用し、教育活動の充実を図る。 (2)PTAとの連携におけるICT利活用を推進する。 (3)HPの更新頻度を高め、広報を丁寧かつ持続的に行う。	(1)学校運営協議会の活動を通して、理数教育の推進及び地域連携の強化を図る。 (1)小、中、高、大との地域連携を強化する。 (2)コロナ後のPTA活動の在り方を検討する。 (3)学校HPを通して、外部のニーズに沿った情報発信を充実させる。	(1)学校運営協議会(年3回)の日程を早期から調整し、多数の委員による意見交換を充実させる。 (1)各種連携行事の開催又は積極参加を行う。 (2)会議の形態としてリモート、対面のメリットをそれぞれ活かした効率的な会議を行う。 (2)PTA活動について、活動の効率化を図るため、行事等の精選を行う。 (3)学校HP等を通して、学校行事や部活動の活動状況の報告など広報の頻度増やす。	(1)学校運営協議会(年3回)を開催し、意見交換を充実させることができたか。 (1)各種連携行事の開催又は積極参加を実施できたか。 (2)会議の効率化、行事の精選ができたか。 (3)学校HPで学校行事や部活動の活動状況の報告などの内容の充実や更新頻度を増やすことができたか。	(1)地域との行事であるながさわニコニコハーモニーを今年度4年ぶりに百合丘高等学校を会場として開催した。清掃活動は今年度については従来通り11月21日に一年生で実施した。 (2)PTA活動の在り方については、体育祭の給水活動、文化祭での食販、制服リサイクル、卒業式への関わり等を検討した。 (3)学校見学や学校説明会でのアンケート結果等から学校HPの内容を充実させるように取り組んだ。	(1)地域との交流を図る場として、一年生が清掃活動を行ってきたが、来年以降は全学年で実施を検討する必要がある。ながさわニコニコハーモニーを行ってきたが、参加団体減少の傾向もあり、来年度に向けて、地域との交流の新しい在り方を考える必要がある。 (2)引き続きPTA活動の在り方やPTAの行事への関わり方を検討する。 (3)引き続きHPの更新を定期的に行い、内容の充実を図る。	・地域の美化活動について、全学年で実施することは地域との交流が強化されるので嬉しい。 ・にこにこハーモニーやオータムフェスタの司会を放送部が頑張っていた。今後とも、地域行事に参加してもらいたい。	(1)学年が地域清掃活動を行い地域との交流を図れた。全学年で実施する活動を計画する。ながさわにこにこハーモニーの在り方を考える。 (2)コロナ後のPTA活動の内容を検討した。会議はリモート、対面を使い分け行った。 (3)理数教育推進に向けた情報発信をする必要がある。	(1)地域との交流を図る地域清掃活動を全学年で実施し、地域の方々にも参加を促し、協働する。ながさわにこにこハーモニーを地域主催にできないか。希望する学校、地域団体が参加できる形にできないか。 (2)引き続きPTA活動の在り方やPTAの行事への関わり方を検討する。 (3)理数教育の具体的な取組について、情報発信を充実させる。
5 学校管理 学校運営	(1)関連グループと密接な連携を図り、ICT利活用のインフラや新たなコンテンツ導入を中心とした整備を行う。 (2)老朽化した施設の更新、エアコンの整備等により、安心安全な学習環境を整備する。 (3)防災意識を高め実践できる教育の推進を行う。	(1)ICT利活用及び理数教育を推進し、情報活用能力を育成し発展させていくため、さらに活用しやすい通信環境、備品の整備等を行う。 (2)ICT機器の不具合を点検し、更新の段取りを行う。 (3)避難訓練等により生徒の防災への意識を高める。	(1)特別教室等のWifi環境の改善を行う。 (2)ICT機器の不具合への対応は常時行うが、特に学期末等の機会を捉えて未対応の軽度の不具合を把握する。 (3)円滑に避難できる避難経路の見直しを行う。	(1)通信状況の改善を行い、ICTの利活用の推進につなげられたか。 (2)ICT機器を必要な時に不具合なく使用できたか。 (3)避難経路の見直しを行い、防災訓練において円滑に避難することができたか。	(1)1人1台PCの活用について、情報利活用委員会の議論を踏まえ、Wifi接続機器を1人1台のPCとする検討を行った。 (2)教室で使用しているモニターの不具合が増えているが、順次対応した。 (3)見直しを行った避難経路で訓練を実施した。	(1)校内Wifi環境の整備として複数存在する接続先を整理する段取りを検討する。 (2)教育環境整備費からの整備で対応する。次年度予算に引き続きモニターの更新を盛り込む。 (3)より実践的な新しい形態の防災訓練を検討する。	・スマートフォン、タブレット、パソコン等、適宜使い分け、ICT利活用を推進してもらいたい。 ・防災教育のより実践的な取組について、検討をしていただきたい。	(1)Wifi接続機器について検討を行った。 (2)ICT機器の不具合への対応、更新を行った。 (3)より実践的な避難経路を見直し新しい形態の防災訓練を実施できた。 (3)引き続き実践的な防災訓練を検討していく。	(1)様々な場面に応じて、各種ICT機器を使い分け、それぞれのメリットを教育活動に活かしていく。 (3)新規導入のICT機器とのバランスを考えメンテナンスを行っていく。 (3)引き続き実践的な防災訓練を検討していく。